

各 位

会 社 名 株 式 会 社 タ ス キ
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 柏 村 雄
(コード番号：2987 東証グロース)
問 合 せ 先 財 務 経 理 部 長 狩 野 雄 一 郎
(TEL 03-6812-9330)

2023年9月期 第1四半期決算発表後の質疑応答について

2023年2月7日の2023年9月期第1四半期決算発表後、アナリスト、メディア、投資家のみなさまからいただいた主なご質問とそれに対する当社の回答を、以下の通り開示いたします。

Q. タスキの物件の施工を手掛けたことのある建築会社が東京地裁へ自己破産を申請したとあるが、未完成となってしまった物件はあるか。また、業績への影響はあるか。

A. これまでに当社の複数の物件の建築を当該建築会社に外注した実績がありますが、現在建築中（未竣工）の物件で当該建築会社が手掛けているものはありません。
したがって、当社の物件の建築がストップすることはありませんので、現時点で当社の業績への直接的な影響は想定しておりません。

Q. 建築外注先の1社が破産してしまったことで、今後の外注先選定に支障があるか。また、建築コスト増による利益圧迫はあるか。

A. 複数の建築会社との取引がありますので、支障はありません。引き続き、当該建築会社以外の建築業者に対して複数棟の一括発注を行うことにより、コスト削減を図ってまいります。資材価格の高騰による影響はありますが、十分な事業採算をとることができておりますので、現時点で当社の業績への大きな影響は見込んでおりません。

Q. 当第1四半期決算では利益率が大幅に上昇しているが、なにか理由があるか。

A. 売上総利益・売上総利益率ともに前四半期（2022年7月～9月）に次いで、過去2番目の利益・利益率を計上することができました。当四半期に引渡を行った15件のプロジェクトがいずれも高利益率であったことが要因ですが、当社の商品企画が広く受け入れられたものと認識しておりま

す。

- Q. 過去の決算資料から、4Qに利益が高くなる傾向があるように見えるが、理由はあるか。また、今後もその傾向は続いていくか。
- A. 不動産業界の傾向として、3月決算会社の期末である3月と中間期末である9月に引渡が多く行われ、不動産全体の取引が活発になります。
業界の取引量に連動して、当社でも第4四半期と第2四半期に売上が多く計上される傾向にあり、これは今後も継続するものと思われます。
一方で、当社は四半期ごとの業績の平準化に努めており、今回の2023年9月期第1四半期決算でも一定の成果をあげられているものと認識しております。
- Q. SaaS事業の進捗を教えてください。
- A. 土地仕入管理サービスの「TASUKI TECH LAND」の導入企業が順調に増えてきております。他のプロダクトを含めて、引き続き機能拡張と顧客獲得に努めてまいります。
- Q. 「海外富裕層向けセールスの強化」とあるが、具体的にはどの地域の顧客が多いか。
- A. コロナ禍の前に非常に活発であった中国本土の顧客は、水際対策が従来のように緩和されていないため、本格的な復活には至っておりませんが、台湾や香港、シンガポールといったアジア諸国の需要が復活してきており、セールスを強化しております。

以上